

# Biz 茶

CHA

04

ビジネスの現場で  
活きる茶の心

## 静けさは語る

所作に宿る心

一般社団法人  
茶道裏千家淡交会理事  
株式会社淡交社  
代表取締役社長

伊住 宗陽



所作とは、単なる動作ではありません。それは、心のあり方がにじみ出る「無言のことば」です。茶道において所作はすべてに意味があり、歩く、座る、道具を扱う、礼をする。

その一つひとつが、相手への敬意と場への心配りを映し出します。

たとえば、茶碗を両手で丁寧に取り、軽くお辞儀をして感謝を表す所作は、ビジネスにおける名刺交換にも通じます。名刺は単なる紙ではなく、相手の人格の一部。両手で差し出し、目を見て丁寧を受け取る。こうした所作にこそ、誠意と敬意が宿るのです。

また、茶室での歩き方も学びの宝庫です。茶道では畳の縁を踏まず、摺り足で静かに進むのが基本。とくに裏千家では、右足から入り、退出時は逆の足から出るという流儀があり、一畳を四歩で進む所作も見ら

れます。これらは空間を乱さぬようにという配慮の表れであり、まさに「静けさ」が語りかけてくる瞬間です。

ビジネスの場面でも、会議室のドアを静かに開け閉めする、椅子を引く音に注意する、着席前に軽く会釈をする。こうした一連の動きに、場と相手への心配りが表れます。所作は小さな動きかもしれませんが、そこに人柄と品格がにじみ出るのはです。



さらに、茶道には「真・行・草」という三段階の礼があります。深く丁寧な頭を下げる「真の礼」、やや浅めの「行の礼」、軽い会釈の「草の礼」。場の格や相手との関係に応じて礼を使い分ける感覚は、ビジネスでも極めて有効です。謝罪には深い礼、出迎えには軽い礼。自然にできる人は、信頼される人でもあります。

そして、茶道の所作は呼吸とともにあります。慌てず、焦らず、整った呼吸から生まれる動きは、相手の心を落ち着かせ、安心を与えます。丁寧な所作は、自分の心を整えると同時に、相手の心を尊重する行為でもあります。

茶道の所作に学ぶことは多くあります。日々のふるまいに静かな美しさを取り戻すこと。それは、信頼されるビジネスパーソンとしての第一歩となるでしょう。